

子供のスマホ3つのリスク

～子供のより良い成長のために～



この資料はインターネット時代をより良く生きる子供たちを
学校・家庭・地域でスクラムを組んで協力して育む
「まえばしネットスクラム」の一環として発行しています

令和5年2月 前橋市教育委員会

子供のスマホ3つのリスク

インターネットは世界中の情報を整理して、一人ひとりの求めに応じて伝えることができる仕組みになっています。その中には有益なものもあれば、有害なものも含まれています。有益な情報を求めて選ぶ力が、インターネット利用には不可欠なのです。

しかし、好奇心旺盛な思春期の子供たちは、様々な情報に興味を持つため、自分にとって本当に必要な情報を選ぶことが苦手です。ゲームや動画の楽しい誘惑に負けたり、直接言っではいけない言葉を文字で伝えたり、ネット上で知らない人からの誘惑に騙されたりしやすい立場にあります。



子供のスマホリスクはどこから生まれる？

- 決めた時間に終わりにできない
- ネット利用以外に夢中になれるものが少ない
- 成長につながる使い方になっていない
- 学校生活に不満や不安を抱えている
- 知らない人との交流に抵抗がない

次のページから詳しく見ていきましょう

1 依存性



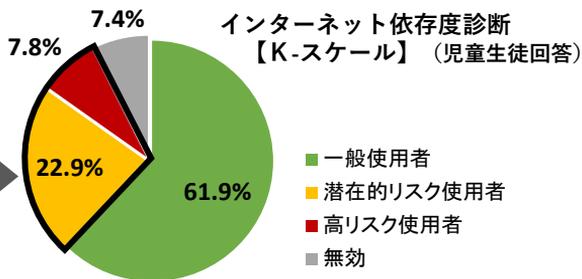
テレビは放送時間が決まっていたり、ゲームはお金がかかったりするなど、かつての娯楽には制限がありました。しかし、無料コンテンツが主流のスマホゲームやいつでも視聴できる動画は際限なく続けられます。

アンケートでも、長時間の利用をやめられない様子がかがえ、ネット依存が心配されます。

特にストレスを感じている時、やる気が出ない時など日常生活の不満や課題が長時間利用につながります。

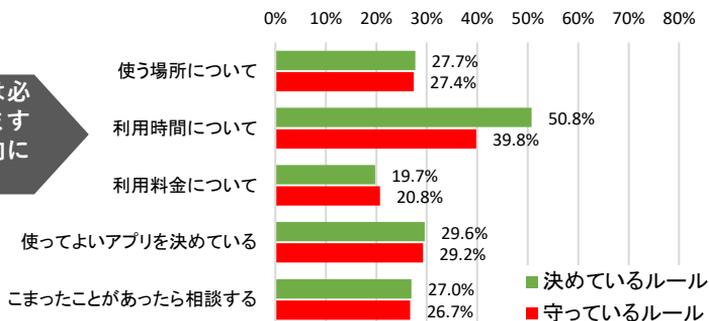
依存的な使用は自分の意志だけではやめることが難しくなっていきます。日ごろから規則正しい生活を心掛けましょう。

前橋市の小学5年生～中学3年生までの児童生徒のうち、30.7%がネット依存傾向にあります。



決めているルールと守れているルールの比較
（児童生徒回答）

時間に関するルールは必要であると考えていますが、守られにくい傾向にあります。



2 関係性



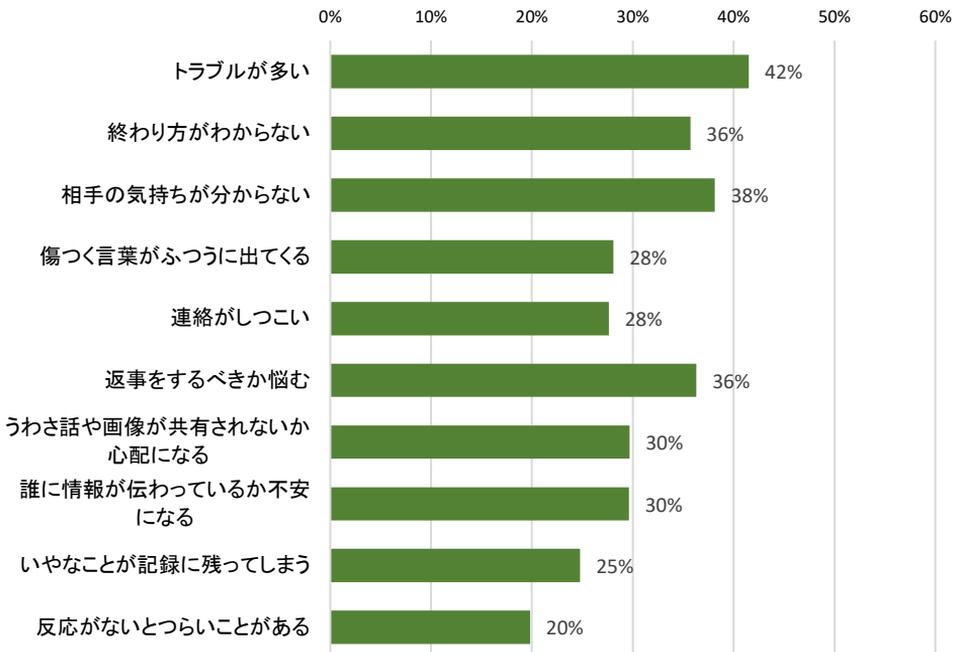
ネット上のコミュニケーションは、相手の本心が読めず、些細なことで関係が崩れやすくなります。

文字情報は受け手が発信者の意図を想像するため先入観が働きやすく、受け手の気分次第でメッセージの意味が変わることもよくあります。やり取りする言葉よりも、相手との信頼関係やその時の気分などを考慮できる広い視野や考えが必要です。

アンケートでも、LINEやSNS上の会話では返信するべきか悩む様子や相手の気持ちがわからない、情報がどのように伝わるか不安など対面での会話とは異なる課題があることがわかります。

LINEやSNSのデメリットは何だと思えますか？

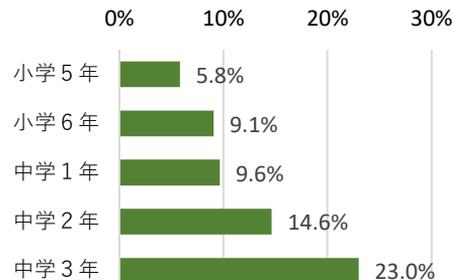
(LINEを「よく使う」「たまに使う」と回答した児童生徒1691名の回答)



3 有害性



SNS利用者のうち、SNSで知り合った人とやり取りをしている児童生徒の学年別割合



令和4年度前橋市ケータイ・インターネットに関わる生活実態調査より

子供部屋は外からの情報が直接届きにくい安全な場所のひとつでした。しかし手元のスマホからインターネットにアクセスできる現在は、逆に保護者の目が届かない子供部屋が外とつながる玄関になります。

アンケートでもSNS利用者は学年が上がるにつれてネット上の交流が増えていることがわかります。

また被害者は事件に巻き込まれるまで危険を察知しにくいこともインターネット特有の課題と言えるでしょう。下のマンガからもわかるように、被害者は根拠もなく相手を信じて、自分から被害に遭いになってしまうのです。



子供のより良い成長のために



本来、子供は経験を基に成長する存在です。よって、試行錯誤の中で発生する間違いがスマホを使うときの問題につながります。しかし、間違いを恐れ、避けてばかりでは成長にはつながりません。

子供のより良い成長を促すヒントを下に示しますので、お子さんと話し合う際の参考にしてください。



- 親子で納得できるルールをつくる
- 計画を立てて使う習慣を身につける
- 夢中になれるものを見つける
- 生活や勉強の役に立つネットの使い道を探る



- 文字だけの会話では誤解が多いことを知る
- 保護者の子ども時代の体験を伝える
- 交友関係や学校のことを話題にする
- 大切なことを伝える手段を考える



- ネット上の交流を把握する
- ネット利用の問題について関心を持つ
- 成長に応じた各種制限について考える
- 一歩立ち止まって判断する大切さを考える

お知らせ

次年度より本啓発資料を複数回に分けてシリーズ化していく予定です。

